

# 令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について

## 1 今年度の結果

今年度の「全国学力・学習状況調査」は、小学校では国語と算数、中学校では国語と数学について調査が行われた。

本市の状況としては、小学校の国語において、全国・県の平均正答率を上回った。それ以外の教科については、全国・県の平均正答率を下回ったが、小学校算数の全国との差は－2.2ポイント、県との差は－1.3ポイントであった。中学校国語の全国との差は－5.6ポイントで県との差は－4.0ポイント、中学校数学の全国との差は－3.2ポイント、県との差は－3.7ポイントであった。

無解答率については、令和元年度と比べると、小学校の国語と算数ともに改善が見られた。中学校では、国語と数学ともに無解答率が高くなっている。

このように成果は多くあるものの、小・中学校ともに課題が残るものもあり、今後も改善に向けた取組を継続していく必要がある。

## 2 教科における経年比較

【小学校 平均正答率】

(単位：%)

教科	市・県・国	H30年度	市と県・全国との平均正答率の差	教科	市・県・国	令和元年度	市と県・全国との平均正答率の差	令和3年度	市と県・全国との平均正答率の差
国語A	亀山市	68.2		国語	亀山市	65.0		66.0	
	三重県	70.1	-1.9		三重県	64.0	1.0	64.1	1.9
	全国	70.7	-2.5		全国	63.8	1.2	64.7	1.3
国語B	亀山市	49.6		算数	亀山市	66.0		68.0	
	三重県	53.6	-4.0		三重県	67.0	-1.0	69.3	-1.3
	全国	54.7	-5.1		全国	66.6	-0.6	70.2	-2.2
算数A	亀山市	60.3		理科	亀山市				
	三重県	62.8	-2.5		三重県				
	全国	63.5	-3.2		全国				
算数B	亀山市	46.9							
	三重県	50.1	-3.2						
	全国	51.5	-4.6						
理科	亀山市	56.8							
	三重県	58.8	-2.0						
	全国	60.3	-3.5						

## 小学校における県平均正答率との比較

- ・今年度の市と県の平均正答率の差を比べると、国語は県平均を上回った。算数については、県平均をわずかに下回った。

国語 市：66.0% 県：64.1% 差：+1.9ポイント

算数 市：68.0% 県：69.3% 差：-1.3ポイント

- ・今年度の市と県の領域別平均正答率を比べると、9領域中、5領域で県の平均正答率を上回った。

国語 「言葉の特徴や使い方に関する事項」

市：72.2% 県：69.8% 差：+2.4ポイント

国語 「書くこと」 市：62.3% 県：58.8% 差：+3.5ポイント

国語 「読むこと」 市：44.8% 県：44.1% 差：+0.7ポイント

算数 「変化と関係」 市：75.8% 県：74.8% 差：+1.0ポイント

算数 「データの活用」 市：76.5% 県：76.3% 差：+0.2ポイント

- ・今年度の市と県の領域別平均正答率を比べて、県の平均正答率を下回った領域は以下の通りである。

国語 「話すこと・聞くこと」

市：75.5% 県：76.3% 差：-0.8ポイント

算数 「数と計算」 市：61.1% 県：62.3% 差：-1.2ポイント

「図形」 市：50.7% 県：54.6% 差：-3.9ポイント

「測定」 市：73.8% 県：74.1% 差：-0.3ポイント

- ・無解答率は、国語、算数ともに改善傾向にある。

(令和元年度→令和3年度)

国語 R1：4.3% → R3：2.6%

算数 R1：2.1% → R3：1.7%

## 小学校における課題

- ・算数の「図形」の領域において改善が不十分な状況が見られる。

【中学校 平均正答率】

(単位：%)

教科	市・県・国	H30年度	市と県・全国との 平均正答率の差	教科	市・県・国	令和元年度	市と県・全国との 平均正答率の差	令和3年度	市と県・全国との 平均正答率の差
国語A	亀山市	73.6		国語	亀山市	70.0		59.0	
	三重県	75.3	-1.7		三重県	72.0	-2.0	63.0	-4.0
	全国	76.1	-2.5		全国	72.8	-2.8	64.6	-5.6
国語B	亀山市	59.7		算数	亀山市	58.0		54.0	
	三重県	59.7	0.0		三重県	60.0	-2.0	57.7	-3.7
	全国	61.2	-1.5		全国	59.8	-1.8	57.2	-3.2
数学A	亀山市	60.0		理科	亀山市				
	三重県	66.6	-6.6		三重県				
	全国	66.1	-6.1		全国				
数学B	亀山市	41.4		英語	亀山市	55.0			
	三重県	45.7	-4.3		三重県	56.0	-1.0		
	全国	46.9	-5.5		全国	56.0	-1.0		
理科	亀山市	63.7							
	三重県	66.0	-2.3						
	全国	66.1	-2.4						

中学校における県平均正答率との比較

・今年度の市と県の平均正答率の差を比べると、その差は、国語、数学ともに県平均を下回った。

国語 市：59.0% 県：63.0% 差：-4.0ポイント

数学 市：54.0% 県：57.7% 差：-3.7ポイント

・今年度の市と県の領域別平均正答率を比べると、8領域すべてが県の平均正答率を下回った。

国語 「話すこと・聞くこと」

市：74.3% 県：78.1% 差：-3.8ポイント

国語 「書くこと」 市：50.8% 県：55.4% 差：-4.6ポイント

国語 「読むこと」 市：41.6% 県：46.0% 差：-4.4ポイント

国語 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」

市：71.8% 県：74.5% 差：-2.7ポイント

数学 「数と式」 市：60.1% 県：64.8% 差：-4.7ポイント

数学 「図形」 市：47.7% 県：51.6% 差：-3.9ポイント

数学 「関数」 市：56.2% 県：57.9% 差：-1.7ポイント

数学 「資料の活用」 市：52.9% 県：54.8% 差：-1.9ポイント

- ・無解答率は、昨年度と比べ国語と数学ともに高くなっている。

(令和元年度→令和3年度)

国語 R1：2.9% → R3：4.8%

数学 R1：8.0% → R3：8.9%

#### 中学校における課題

- ・県の平均正答率との差で有意な差とされている5ポイント以上差のある領域はない。しかし、4ポイント以上差のある以下の領域については改善を要する状況が見られる。

国語 「書くこと」「読むこと」

数学 「数と式」「資料の活用」

- ・国語と数学ともに無解答率が高い状況が見られる。

### 3 質問紙に見られる特徴

#### 【小学校 児童質問紙】

○令和元年度と比べ、肯定的な回答の割合の伸びが5ポイント以上のものは、以下の項目である。  
(単位：%)

質問事項		令和 元年度	令和 3年度	令和3年度と 令和元年度の差	
学校に行くのは楽しいと思いますか	市	81.7	88.2	6.5	↑
	県	85.5	83.2		
5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	市	54.9	61.7	6.8	↑
	県	61.2	62.5		
5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	市	70.4	81.7	11.3	↑
	県	77.5	78.2		
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	市	52	65.3	13.3	↑
	県	56.1	64.5		
あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	市	66.8	78.5	11.7	↑
	県	72.1	70.0		
学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	市	67.7	73.9	6.2	↑
	県	72.5	73.1		
道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	市	78.3	85.4	7.1	↑
	県	78.9	80.4		
算数の勉強は好きですか	市	63.3	71.4	8.1	↑
	県	70.1	69.9		
算数の授業の内容はよく分かりますか	市	81.3	89.1	7.8	↑
	県	85.7	87.0		
算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	市	66.2	75.6	9.4	↑
	県	76.4	74.5		
算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	市	77.7	86.7	9.0	↑
	県	82.9	82.7		
算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	市	82	90.8	8.8	↑
	県	84.3	89.4		
算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	市	85.2	91.8	6.6	↑
	県	87.1	92.3		

- ・「学校に行くのが楽しい」と感じている児童の割合は増加し、県平均も上回っている。
- ・授業において、「自分で課題を立て、課題解決に向けて自分で考え自分から取り組む」児童の割合が令和元年度より10ポイント以上増加し、県平均も上回っている。
- ・「学級での話し合いを大切にして学習や学級活動等を行っている」児童の割合が増加し、県

平均も上回っている。

- ・算数の学習において、「算数が好き」であったり「授業内容を理解」していたり、「普段の生活の中で活用しよう」としたりして、算数の学習に意欲的に取り組んでいる児童の割合が増加しており、県平均を上回っている。

○令和元年度と比べ、肯定的な回答の割合が大きく下がったものは、以下の項目である。

(単位：%)

質問事項		令和 元年度	令和 3年度	令和3年度と 令和元年度の差	
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	市	81.4	77.5	-3.9	↓
	県	80.9	80.3		
将来の夢や目標を持っていますか	市	79.7	75.1	-4.6	↓
	県	82.6	79.7		
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く） 【10分以上読書をする児童】	市	64.9	59.2	-5.7	↓
	県	63.9	58.6		
新聞を読んでいますか【週に1～3回程度以上読んでいる児童】	市	16.7	12.0	-4.7	↓
	県	19.2	14.0		
今、住んでいる地域の行事に参加していますか	市	78.9	74.3	-4.6	↓
	県	74.1	65.3		
国語の勉強は好きですか	市	55.1	53.5	-1.6	↓
	県	61.6	56.1		
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	市	92.4	90.6	-1.8	↓
	県	93.3	93.3		

- ・「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」児童、「将来の夢や目標を持っている」児童の割合は、減少している。県平均も下回っている。
- ・「1日10分以上読書をする」児童の割合が、5ポイント以上減少しているが、県平均は上回っている。
- ・「新聞を週に1回から3回以上読む」児童は減少し、県平均も下回っている。
- ・「地域の行事に参加している」児童の割合は減少しているが、県平均を9.0ポイント上回っている。
- ・「国語の勉強が好きな児童」や「算数が将来役に立つと思っている」児童の割合が減少し、県平均を下回っている。

【中学校 生徒質問紙】

○令和元年度と比べ、肯定的な回答の割合の伸びが5ポイント以上のものは、以下の項目である。  
(単位：%)

質問事項		令和元年度	令和3年度	令和3年度と令和元年度の差	
人が困っているときは、進んで助けますか	市	84.9	90.4	5.5	↑
	県	86.9	90.5		
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）	市	53.7	70.4	16.7	↑
	県	52.6	65.0		
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）【1時間以上勉強している生徒】	市	67.3	73.3	6.0	↑
	県	67.5	73.3		
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	市	43.3	50.1	6.8	↑
	県	40.2	46.9		
1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	市	49.5	61.8	12.3	↑
	県	55.2	61.6		
1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	市	76.4	86.6	10.2	↑
	県	77.6	83.9		
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	市	50.7	59.2	8.5	↑
	県	53.8	61.4		
あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	市	68.6	81.4	12.8	↑
	県	73.4	75.4		
学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分がすべきことを決めて取り組んでいますか	市	65.1	78.7	13.6	↑
	県	66.2	71.0		
道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	市	76.2	90.4	14.2	↑
	県	77.1	88.1		
数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	市	75.7	81.8	6.1	↑
	県	78.8	76.6		
英語の勉強は好きですか	市	50.5	65.1	14.6	↑
	県	55.5	57.5		

- ・「人が困っているときは、進んで助ける」生徒の割合は90%を超え、令和元年度より増加している。「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えている」生徒の割合も増加している。
- ・「家で自分で計画を立てて勉強している」生徒の割合が16.7ポイント増加した。県平均も5ポイント以上上回った。「家で1時間以上勉強している」生徒の割合も令和元年度を上回っている。
- ・「授業で課題の解決に向けて自分で考え自分から取り組む」生徒や「自分の考えをうまく

伝えようと工夫して発表している」生徒の割合が10ポイント以上増加し、県平均も上回っている。

- ・「総合的な学習の時間に自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組む」生徒は、県平均を下回ったが、令和元年度を上回った。
- ・「学級活動において話し合いを大切にしている解決方法や自分のすべきことを決めている」生徒や「道徳の授業で話し合い活動により自分の考えを深めている」生徒の割合が10ポイント以上増加した。県平均も上回っている。
- ・「数学で学習したことは将来役に立つ」と思って学習している生徒が増加し、県平均も上回っている。
- ・「英語の勉強が好きな生徒」は14.6ポイント増加し、県平均も大きく上回っている。

○令和元年度と比べ、肯定的な回答の割合が大きく下がったものは、以下の項目である。

(単位：%)

質問事項		令和元年度	令和3年度	令和3年度と令和元年度の差	
新聞を読んでいますか【週に1～3回程度以上読んでいる生徒】	市	12.8	9.4	-3.4	↓
	県	13.4	10.9		
今、住んでいる地域の行事に参加していますか	市	74.4	69.9	-4.5	↓
	県	56.8	52.5		
1, 2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか【週1回以上使用した生徒】	市	36.9	16.0	-20.9	↓
	県	37.1	39.2		
国語の勉強は好きですか	市	67.9	60.5	-7.4	↓
	県	60.7	61.0		
国語の授業の内容はよく分かりますか	市	82.4	81.4	-1.0	↓
	県	81.1	83.7		
今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題についてどのように解答しましたか【全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した生徒】	市	79.4	76.5	-2.9	↓
	県	81.3	76.0		

- ・「新聞を週に1～3回以上読んでいる」生徒の割合は令和元年度より減少し、県平均を下回った。
- ・「地域の行事に参加している」生徒の割合は減少したが、県平均を17.4ポイント上回っている。
- ・「ICT機器を週1回以上使用している」と回答した生徒の割合は、大きく減少している。
- ・「国語の勉強が好きで、授業の内容がよく分かる」生徒の割合が減少している。県平均も下回っている。
- ・「国語の問題に最後まで解答を書こうと努力した」生徒の割合は減少したが、県平均を上回っている。

○新型コロナウイルス感染防止対策で実施された昨年度の一斉休校の影響を尋ねる質問において、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した児童生徒の割合は以下のとおりである。  
(単位：%)

質問事項		市	県	市と県との差
新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか	小6	55.3	54.3	1.0
	中3	64.3	62.6	1.7
新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができましたか	小6	69.3	64.7	4.6
	中3	47.5	42.8	4.7
新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていましたか	小6	66.6	64.2	2.4
	中3	61.1	51.0	10.1

- ・新型コロナウイルスの感染拡大で学校が休校していた期間中、不安を感じていた児童生徒は県平均を上回っている。
- ・休校期間中、「計画的に学習を続けることができた」「規則正しい生活を送っていた」児童生徒は、小学6年生、中学3年生ともに、県平均を上回っている。

#### 4 課題の解決に向けた今後の取組について

本年度の全国学力・学習状況調査の結果、課題として考えられる点については、次のとおり解決に向けて取組を進める。

##### (1) 学力面での課題について

小学校については、国語において大きな課題は見られなかった。これは、亀山市独自の統一「小学校国語科確認テスト」を作成し、3年生以上で実施するなど、「亀山市学力向上推進計画【第3版】」における3本の重点課題の取組を行ったことによる一定の効果があったと考えられる。今後も引き続き、「読む力」「書く力」の育成を柱とした資質能力の向上に努めていく必要がある。

算数においては「図形」の領域に課題が見られる。図形の考察においては、観察や構成などの活動を通して、図形の意味を理解したり、図形の性質を見つけたり、図形の性質を確かめたりする学習活動が必要である。様々な図形を構成したり弁別したりする活動を取り入れ、その図形の性質が発見できるような指導をするとともに、図形の性質について、筋道を立てて説明できるようにする過程を組み込んでいく。

中学校については、国語における「書くこと」と「読むこと」に課題が見られる。とくに

「語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く」とことと「文脈の中における語句の意味を理解しながら読むこと」、「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ」ことに課題が見られる。書いた文章を生徒が互いに読み合い、自分の表現に役立てるとともに、自分の考えを広げたり深めたりする活動を取り入れることが大切である。また、読む目的や意図を明確にし、読むことによって何を不得、どう活用するかという意識をもち、本や文章などの内容や形態に応じて読ませる指導が必要である。

数学においては、「数と式」「資料の活用」について課題が見られる。「数と式」の領域では、事柄の特徴を数学的に説明することに課題が見られる。数に関する事象を考察する際は、成り立ちそうな事柄を予想し、予想を確かめ、事柄が成り立つ理由について筋道を立てて説明する活動を取り入れることが大切である。「資料の活用」の領域では、データの傾向を的確に捉えることと、理由を数学的な表現を用いて説明することに課題が見られる。表やグラフなどからデータの傾向を適切に読み取る活動や、数学的な表現を用いて授業のふり返りを書かせるなどの活動を取り入れることが大切である。

## (2) 児童生徒質問紙に見られる課題について

小学校においては、「将来の夢や目標を持っている」児童が減少している。感染症防止対策で、地域の方等との交流や体験的な活動が制限されている中で、子どもたちが新たな学習への意欲を高めたり将来のあり方や生き方を考えたりすることができるよう、学んだことや体験したことをふり返り、記録する「キャリア・パスポート」を活用した系統的な学習をしていく必要があると考える。

「国語の勉強が好き」と回答する児童が減少していることについては、目の前の児童に「何を学ばせるか」「どんな力をつけたいか」を明確にした上で、子どもたちが「やってみたい」「楽しそう」と思えるような言語活動を設定した授業づくりを行う必要がある。

中学校においては、「1, 2年生のときの授業でICT機器を週1回以上使用していた」と回答する生徒の割合が大きく減少している。今年度から、GIGAスクール構想により1人1台端末が導入されたので、日常的にICTを活用することが必要である。これまでの実践とICTを組み合わせ、「調べる、まとめる、考える、話し合う」活動を行い、学びの質の向上を図ることが大切である。

小学校、中学校において、「普段、10分以上読書をする」児童生徒が減少している。読書活動は読み手の自主性や自発性を尊重することが重要であるが、児童生徒の個に応じた計画的かつ継続的な指導によって読書を価値あるものとして認識できるように指導をしていく必要がある。低学年から読書を楽しみ親しむことができるよう、「かめやまし読書リレー」を継続的に取り組んだり、「かめやま読書チャレンジ」により、様々な本に触れる機会を設けたりすることが大切であると考え。また、朝の学習で読書や、リーディングパーティー（全校読書活動）等の読書活動により、児童生徒の読書習慣をつけていく。

「1日当たり、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式ゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をする時間が1時間以上である児童生徒が80%を超えている。

各校においてゲームやメディアに触れない日を設けるなどの取組をしているが、その趣旨を今一度確認し、児童生徒が「ゲームやメディアへの触れすぎによる影響」について理解した上で自発的にゲームやメディアに触れない活動に取り組むことなどが大切であると考えます。

このような様々な課題が見られる中で、児童生徒一人ひとりのつまづきを把握し、学習の理解と定着を図ることができるよう、教員の授業力向上と授業改善に努めていく。また、児童生徒一人ひとりに対するきめ細かな支援を ICT 等も活用しながら進めていかなければならない。各校では、校長、教頭が校内でリーダーシップを発揮し、各校における成果や課題の把握や、「亀山市学力向上推進計画【第3版】」に基づいた授業改善の具体的な取組の実施、補充学習等による基礎学力の定着に向けた取組の実施を、今後も継続していく必要がある。また、学校と家庭が連携し、児童生徒が主体的に学習に取り組む習慣と規則正しい生活習慣の定着に向けた取組も必要である。

教育委員会として、市内の現状を踏まえ、新たな「亀山市学力向上推進計画」の策定作業を進めるとともに、教員の指導力向上のために県や市の指導主事、教職員指導員等を派遣するなどの支援に努めていく。